

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292200011		
法人名	社会福祉法人三笠苑		
事業所名	グループホームユートピア白神		
所在地	青森県中津軽郡西目屋村田代字稲元3-1		
自己評価作成日	令和5年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/02/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0292200011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>西目屋村は小さな村で、入所された方の知り合いが誰かしらはいらっしゃるので、初めて入所する方にとっては、気持ちが高くなると思われれます。 地域との関わり合いも、コロナ禍以前の状態に戻ってきました。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム近隣には役場や消防署等があり、生活しやすい場所に立地している。 また、地域の行事には積極的に参加する等、地域住民との交流を大切にしており、災害発生時には、運営推進会議のメンバーや役場の協力が得られる体制を整えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を共有しながら事業所独自の理念も作成し、管理者と職員は利用者がその人らしく生活できる支援を心がけている。	法人の理念の他、ホーム独自の理念を作成しており、地域密着型サービスの役割を反映されたものとなっている。理念はホーム内の至る所に提示している他、朝の申し送りでも唱和し、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の祭り行事に参加している。また、幼稚園の慰問を受けている。	お山参詣やねぶたの訪問を受け入れたり、村で主催している文化祭や敬老会等に進んで参加し、地域との交流を図っている。また、近隣住民に気軽に立ち寄ってもらえるよう、働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護保険を知らずに相談に来られる方へも説明ができるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで本開催ができなかったが、今年からは本開催をしている。サービス向上への反映はまだない。	感染症状況を見ながら、書面や対面で会議を開催し、事業の計画や実施状況等を報告している。また、メンバーと情報交換を行いながら、多様な意見を出していただけるように働きかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の入・退院、入・退去、新型コロナウイルスに対する抗原検査の実施状況等、随時報告をしている。	村の職員が運営推進会議に参加しており、ホームの実態を理解していただいている。また、役場へはホーム便り等の広報誌を配布している他、自己評価及び外部評価結果、入退所等の報告も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、施設内で身体拘束についての研修会を行っている。	身体拘束の指針やマニュアルを整備している。外玄関は自動ドアを手動とし、高い位置にあるボタンで扉の開閉を行っている他、ペットの柵を使用する際は家族の意向を確認して同意を得ており、毎月の会議で継続・終了の検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内の会議や研修会等で学び、使用した資料等で繰り返し理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体では理解度は低く、これから勉強が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には時間をとって説明し、質問を受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	仕組みはあるが、活用されたことはあまりない。	職員は利用者の様子を見ながら声がけをして、意見や苦情を出しやすいように働きかけている。利用者や家族等が外部に意見等を出せるよう、意見箱を設置している他、ホーム内外の相談・苦情受付窓口を明示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には面談や会議等で思いを聞いている。必要に応じて、意見を吸い上げて反映させている。	ホームの運営方法や利用者の受け入れ等について、職員会議で意見を聞いている。また、日頃から職員の意見を聞くようにしており、勤務体制は職員の休みの希望も取り入れて、柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休や特休を取りやすい職場だと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に年1回は法人外研修に参加してもらっていたが、今年度はコロナ禍のため自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はコロナ禍のため、あまり行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態確認を細かく行い、本人の訴えを傾聴して把握に努めている。家族からも情報収集し、希望等を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望を取り入れた上で、現時点での問題点を把握し、必要なサービスを提案して、家族にも報告、承諾を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	都度ミーティングを行い、現状に応じたサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態確認を細かく行い、本人の訴えを傾聴し、把握に努めている。家族からも情報収集し、希望等を確認している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に洗濯物を干したり、畳んでいる他、テーブル拭き等を行い、互いに信頼関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月お手紙を発送して近況報告を行っている他、何かあった際には随時報告をし、共に支え合う関係を築いている。	利用者がこれまで関わってきた人を把握しており、ホームへの訪問があった際は、その都度、感染状況を見ながら面会に対応している。また、希望に応じて、馴染みの場所に出かけられるよう、家族等にも協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	住み慣れた方との交流を継続できるよう、支援している。馴染みの場所へは外出支援をし、地域の行事に積極的に参加していただき、触れ合いを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昔馴染みの方が多く、プライバシーの侵害にならない程度に関わり合い、コミュニケーションが難しい方には職員が間に入り、相互に関係が築けるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴や余暇時間等、各活動時の声かけやコミュニケーションを通じ、表情を伺い、寄り添って話を聞いたり、本人の思いを聞き取るように努めている。	職員は日頃の会話等から、利用者の思いや希望、意向等を把握するように努めている。また、必要に応じて、家族や関係者から情報収集を行い、全職員が利用者の視点に立って、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に昔の様子を聞いたり、本人との普段の会話やコミュニケーションの中で情報を収集し、職員間でも情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や排便量、残食量の観察、記録を通じて日々の状態の確認を行い、声かけにより、表情や心身の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、かかりつけ医、訪問看護師に意見・要望を聞き、介護計画に反映させている。担当者同士、他職員間との話し合いや意見交換、日々の記録や生活状況を踏まえ、計画作成に努めている。	介護計画作成時にはカンファレンスを行い、全職員の意見を把握した上で、利用者や家族の意向を反映させた計画を作成している。また、利用者の体調や家族の希望等に変化があった時は、評価、カンファレンスを行い、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録を職員が記入し、気づきがあれば話し合い、サービスに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な要望や希望に対してもすぐに対応することで、一人ひとりの暮らしの中で、柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であまり行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、提携医院に往診に来ていただいている。	入居時に、利用者のこれまでの受療状況を把握しており、入居後の受診についても意思確認を行っている。受診結果は、毎回の通院後に家族へ報告している他、連携している訪問看護ステーションにも報告し、情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、看護師の訪問を受け、健康状態を伝達している。必要に応じて、看護処置を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室とサマリー等をやり取りし、スムーズな入退院を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入所時に看取りを行えることを伝え、実際にホームで看取られた方も何名かいる。	利用者の重度化や終末期の在り方について、入居時にホームの方針を説明している。利用者の状況に変化があれば、再度説明して意向を確認し、訪問看護ステーションとの24時間体制の連携により、支援する体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急手当初期対応、また、AEDを設置し、講習会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害訓練を実施している。	年2回避難訓練を実施し、そのうち1回は夜間を想定して行っている他、専門業者により設備点検も、訓練に合わせて年2回行っている。また、災害発生時には、運営推進会議のメンバーや役場の協力が得られる体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を傷つける対応のないよう、職員には徹底している。	利用者の言動を否定や拒否することなく、職員は言葉遣いに注意して対応している。また、衣類の着脱時等、利用者の羞恥心に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症も進んでいる中で、何かを決める時には利用者に提示して選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味や日課等を一日の生活に取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家から本人の好みの衣服を持参していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在コロナの影響で、食事のセッティングは職員が行っている。事前に嫌いな物を聞いておき、代替品を提供することもある。	献立は法人全体で栄養士が立て、苦手な物がある場合は代替食を準備する等、配慮している。職員は一緒にテーブルに着き、介助しながら、見守りや声かけ等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は個別に管理しており、足りない場合は時間を空け、補食を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に食後の口腔ケアをお願いしている。一人で行えない方には職員が介助に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用意し、排泄リズムを把握している。自力での排泄が一番望ましいと考えており、可能な限りトイレでの排泄をいただいている。	排泄表に記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンに応じた事前誘導を行っている。また、尿意や便意の確認時、誘導時、失禁時の対応は、利用者の羞恥心に配慮して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の運動能力を考慮しながら、運動への働きかけを行い、不足のない水分量を提供し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	風呂の温度の好み等で順番を組み、快適な入浴をしていただいている。	利用者の入浴習慣や好みを把握し、基本的に一人週2回は入浴できるように支援している。入浴の際は、浴室内と脱衣所の対応の職員二名で支援しており、希望に応じて、同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には可能な範囲で職員が付き添い、安心感を感じていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は職員が把握しており、変更があった時から体調に変化はないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の品の持ち込みを推奨しており、思い思いに楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で思うようにはできなかったが、それでも春、夏、秋は外出イベントを企画して楽しんでいただいた。	季節の景観を楽しめる外出行事を行い、利用者の気分転換を図っている。また、利用者との普段の会話を通じて、希望する外出先を把握している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自ら金銭管理ができる場合は、家族の同意を得て、少額の金銭を管理していただいている。金銭管理をできない利用者でも、買い物の際には支払を行ってもらう等、支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を利用して、家族と会話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓によりホールに程良い明るさが保たれている。エアコンや床暖房により、施設内が適度な温度に調整されている。プライバシー保護のため、居室入口に暖簾をかけている。職員がホールに、季節に合わせた飾り付けを行っている。	職員が立てる物音や声、テレビ等の音量的他、日差しや照明等により、室内の明るさも適当である。また、ホーム内は床暖房で、ホールには温・湿度計があり、快適な空調となるように管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等を利用し、利用者がゆったりとテレビを見たり、数人で会話できる場所を確保している。利用者や相談しながら、テーブルの配置や席替えをする等、快適に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の愛用品を持って来てもらうよう、家族に積極的に働きかけを行っている。居室内の家具等の配置を一緒に行う等、自分らしい居室作りを行い、乱雑にならないよう、定期的に整理整頓を行っている。	利用者が使用していた愛用の物を持って来ていただくように働きかけ、居室にはテレビや将棋盤、書籍等の持ち込みがある。また、持ち込みが少ない場合は、職員が利用者の意向を確認しながら、一人ひとりに合った居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に生活できるよう、手摺り等の汚れや破損がないか、点検確認をしている。場所の間違いや勘違いを防ぐため、目印を付けたり、わかりやすい表示に変更する等、工夫している。		